真田宝物館「戦国の絆」 体感記

真田幸俊 Yukitoshi Sanada 慶應義塾大学理工学部

1 はじめに

科学館は日常生活で利用している電化製品や自動車・電車等の乗り物や交通機関の歴史や仕組み、自然現象の原理を学ぶことができ、科学を身近に感じられる場所です。そんな科学館を少しでも知って頂こうと、科学館・博物館を紹介していますが、今回はちょっと趣向を変えて真田宝物館を訪れました（図1）。

真田宝物館は長野市松代町に1969年に開館し、松代藩真田家に残された文化財を展示しています。今年はNHK大河ドラマで「真田丸」が放映されるのにちなんで、「戦国の絆」をテーマに特別展を開催しています（2016年1月17日～12月12日の限定開催）。その特別展の内容の一部を紹介します。

2 真田家の経歴

図2は真田家が天皇家に連なるとする家系図です。江戸時代享保期（1720年）頃のもので、清和天皇の子孫と主張していますが、江戸幕府に「不審」と指摘さ

れていました。

図3は真田昌幸所用の昇りばしごの具足です。武運長久を願って昇りばしごを描いたと言われます。この具足は軽く作られており、重さは9.4kgしかありません。

3 真田丸ゾーン

図4は真田丸の位置が記載されている絵図で、大坂の陣の後のものです。絵図の出どころは不明ですが、内堀と外堀の縮尺などが実際と異なるので、合戦の様子を説明するために描かれたのではないかと思います。

真田信繁（幸村）は慶長19年（1614年）10月13日に大坂城に入城しました。メールも電話もない時代に豊臣方の動向を伝えるため、京都所司代板倉勝重は家康の元に急飛脚を送りました。飛脚は翌14日駿府に届いています。ただし勝重は信繁を源三郎（兄信之の仮名）と誤り、わざわざ高野山に引きこもっていた人物と説明を書き添えています。信繁の存在は大坂の陣以前はさほど有名ではなかったようです。

図5は大坂の陣で用いられた鉄盾です。銃弾が貫通

図1 リニューアルした真田宝物館

図2 真田家の家系図

図3 昇りばしごの具足

図4 真田丸の位置を示す絵図

した生々しい跡が残っています。

真田丸によって大坂方は大きな戦果を挙げました。真田丸に築いた2階建ての櫓から、長距離射程の大挟間筒を用いました。そのため徳川方は真田丸に近づけず、塹壕戦になり戦線は膠着状態になりました。そこで徳川方は大筒を使って本丸を狙う作戦に切り換えました。

図5 大坂の陣で用いられた鉄盾

4 信繁の書状

真田信繁の書状は全部で8通ほどしか残っていません。図6はそのうちの1通で姉村松に宛てたものです。大坂城に入ったことで家に迷惑を掛けることを詫び、何とか大坂冬の陣を乗り越えて生き残っていることなどや不安な心情を伝えています。

島津忠恒の手紙に真田信繁は「日の本一の兵（つわもの）」とありますが、これは伝聞により書いたものです。兄真田信之（松代藩初代藩主）が信繁について評したもののには「物ごと柔和忍辱（にんにく）にして強（こわ）しからず。言葉少なにして怒り腹立つことなかりし。」（先公実録）とあり、穏やかな人物であったようです。村松への手紙から受ける印象も豪快な人物というよりは家族を気遣う心優しい人物に思えます。

5 大坂の陣の後

図7は小川家に伝わる家伝の古記録です。馬場主水が兄信之と弟信繁の内通を幕府に訴えたこと、真田家は忍びを派遣し、馬場を打ち取ったことなどが記されています。実際に兄信之が弟信繁を裏から支援していたのかどうかは不明です。

助命嘆願して命を救った信繁が大坂の陣で豊臣方についたことで、兄信之は微妙な立場に立たされました。大坂夏の陣では信之の息子信吉、信政が出陣し大きな戦果を挙げましたが、同時に36騎討死35騎負傷と味方も大きな犠牲を出しました。疑いを晴らすために奮戦したのでしょうか。

6 おわりに

御紹介した以外にも大坂城攻めに用いたものと同型の大砲などの戦いの記録や、その時代に生きた人々の痕跡、

図6 信繁の書状

図7 小川家古記録

更には昌幸・信之・信繁の親子兄弟の絆を示す物が多数展示されています。展示の内容は4期に分けて、入れ替えられる予定です。また松代では真田宝物館だけでなく、近接する真田邸、文武学校でも特別展を開催しています。それらの特別展は幕末の建造物を見学できるだけでなく、お琴、お茶、古武道、弓道などを体験できる企画も週末などに用意しています。詳しくはホームページ*を御参照下さい。

■ 参考 URL

* <http://www.sanadahoumotsukan.com/>

Access

「真田宝物館」特別企画展

休 館 日：毎週火曜日（祝日を除く）

開館時間：9:00～17:00（入館 16:30 まで）

入 場 料：（特別企画展特別料金）

— 真田宝物館

個人一般 600 円 小中学生 200 円 団体一般 500 円

小中学生団体 150 円

— 真田宝物館・真田邸・文武学校 3 館共通券

個人一般 800 円 小中学生 300 円 団体一般 700 円

所 在 地：長野市松代町松代 4-1

U R L： <http://www.sanadahoumotsukan.com/>

電 話：026-278-2801

眞田幸俊（正員：シニア会員）

平4慶大・理工・電気卒。平9同大学院理工学研究科博士課程了。同年東工大・工・助手。平12(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所入社。平13慶大・理工・講師。平23同大学・理工・教授。現在に至る。この間移動通信の研究に従事。平21～23 本会東京支部評議員。